



化学部門で「貴金属資源と回収技術」に関する講演会を開催

【概要】

2025年12月1日（月）に、理工学部化学部門の主催により、新藤 裕一朗 様（松田産業株式会社 貴金属材料事業部長・知財部長・技術開発部管掌・上席執行役員）による講演会「金属と資源循環の重要性」を開催しました。

【本文】

2025年12月1日（月）に、理工学部8号館5F国際環境科学セミナー室にて、松田産業株式会社貴金属材料事業部長・知財部長・技術開発部管掌・上席執行役員である新藤 裕一朗様を講師にお迎えし、「金属と資源循環の重要性」と題した講演会を開催しました。本講演会は、西九州化学工学懇話会主催、CIREn レアメタル回収研究分科会共催のもと、理工学部化学部門の大渡 啓介 教授の企画により開催されました。

新藤様は、日本鉱業株式会社（現・JX金属株式会社）から松田産業株式会社へ出向後、同社へ完全移籍され、現在は貴金属材料事業部にとどまらず、知的財産や技術開発など多岐にわたる事業に携わっておられます。また、日本溶媒抽出学会では産業部門の理事を務めるなど、产学連携の推進にも尽力されています。

今回の講演では、松田産業株式会社の事業の一つである貴金属関連事業に焦点を当て、貴金属や希少金属資源、資源ナショナリズムなど金属資源循環に関する課題、貴金属資源のリサイクルの現状と基礎技術から最新技術に至るまで、さらに同社の貴金属精錬技術についても詳しく紹介いただきました。学生の参加が多かったことから、精錬技術の基礎についても丁寧な解説がなされました。

また講演の終盤では、会社における仕事への向き合い方について熱意を込めて語られ、「意志あるところに道は拓ける」、「居心地の良い場所から飛び出せ」、「『報・連・相』よりも『確・連・報』が重要」といったメッセージは、学生のみならず教職員にとっても示唆に富む内容でした。講演後には多くの質問が寄せられ、予定時間を大幅に超えるなど、非常に充実した講演会となりました。



代表による挨拶



新藤様による講演の様子